

陶磁器はどう変わっていくか  
ー現代ヴェトナムの事例からー

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/2922">http://hdl.handle.net/2297/2922</a>

陶磁器はどう変わっていくか

- 現代ヴェトナムの事例から -

西野範子（金沢大学大学院博士課程2年）

民族考古学的視点から、20世紀におけるヴェトナムの一窯業村の陶磁器や窯業の変化を抽出し、その要因を明らかにし、窯業変化のパターンを導き出すこと目的とする。

対象とした地域は、ヴェトナム紅河デルタ、バックニン省のカウ河右岸に位置するフーラン村であり、10世紀ごろから現代まで続く窯業村である。現在は、水瓶、壺、棺桶などの褐色の化粧土を施した大型陶器が主に生産されている。

フーラン村の村人への聞き取り調査と参与観察を主な資料とし、古老への聞き取り調査が可能な20世紀初頭から調査を行った2002年までの窯業の変化を復元していく。

まず、20世紀のヴェトナムの劇的な歴史（フランス植民地時代、日本軍仏印北部進駐、抗仏戦争、ディエンビエンフー陥落、合作社制度、抗米戦争、カンボジア侵攻、中越戦争、ドイモイ政策）と、フーラン村人が実際に体験した歴史のずれを明らかにした。彼らの歴史は、フランス植民地時代に資産家が燃料である木材の流通を牛耳ったこと、フーラン村が激戦地となった抗仏戦争、国家管理体制の生産組織の変化（合作社時代）、洪水による移住という事件に対し、強い影響を受けている。

次に、窯業を構成する、原料（粘土、木材、釉薬）、製品、窯の形、窯の数、生産周期、技術伝播、生産システムの変化とその要因を明らかにした。以下にその一部を紹介する。

粘土、燃料である木材、釉薬の入手場所が変化したのは、流通が閉ざされた抗仏戦争期である。他に、粘土は枯渇して新しい場所に採掘場所を変更した例が2001年に見られる。木材は、合作社時代に入るとコストダウンの為、より近くの木材を入手ようになる。釉薬も1980年頃から、安価な原料を用いる為に質が低下していく。器種は、合作社という生産体制のもとで、急須、碗皿などの小型製品が生産されなくなり、合作社制度が解体した後も大型製品のみが生産が続く。また、他の窯業村の廃業により、他村で生産していた新機種を新しくフーラン村の製品として加えた。伝統的な窯の形は、支柱で天井を支える単房式窯であったが、合作社解体以降、フーラン村人が中国国境で学んだアーチ状の天井（内部に支柱を用いない）単房式登窯に変更した。窯の数は、窯業を担う世帯数に影響される。従来は、12-14基であったが、抗仏戦争期には3基に、合作社時代は、前半を5基、後半を7基と規定される。合作社解体以降、自由化と

同時に窯業を担う世帯が増加し、窯数も増えるが、1990年代後半から供給過剰、及び代替品の出現により、窯数は明らかに減少した。合作社の導入によって、生産体制が家内制手工業から工場制へと変化することにより、技術伝播も「親から子へ」から、組織内の「熟練者から見習い工へと変化した。

総括すると諸側面の影響と窯業の変化の関係は以下のようにパターン化できる。

- (ア) 戦争：原材料や製品の運搬の為の流通路が閉ざされる。現地で供給できるものに関してはほとんど影響を受けない。生産の時間帯、規模は縮小されるが、生産を停止することはほとんどない。しかし、どの戦争も一様に影響を受けたわけではなく、戦争の性質、戦場化の程度によって異なる。
- (イ) 生産組織の変化（合作社時代という国家管理体制）：生産体制そのものが変化すると、技術伝播の仕方に影響を及ぼす。国家管理体制による生産の管理は、結果として、生産数の減少、需要の増加、悪質なものでも販売可能、質と技術の低下に繋がっていく
- (ウ) 流通：運搬業を担う者が増えるとそれに伴い生産数、窯業従事者数も増加する。しかし、増加が著しく供給過剰になると、再び減少する。
- (エ) コストダウン：代替品（プラスチック製品）の普及、生産過剰により、需要が減ると製品は売れ残り、結果として質の低下を招く。
- (オ) 周辺窯業村の影響：ライバルとなる他の窯業村の生産には大きく左右される。他村が廃業すると、他村が生産していた製品も新たに器種に加わる。また、生産規模も自然に拡大方向に向かう。
- (カ) 個人：新しい技術の導入や新しいアイデアを実現するのは、個人の活力によるところが大きい。成功例は実際に製品や技術を変化させるが、同様の数だけ失敗例もあることも確認できた。

#### 参考文献

- 西野範子 1997 『北部デルタにおけるフーラン窯業村の位置づけ』東京外国語大学提出卒業論文。
- 2002 「ヴェトナムにおける陶工と行商人の移動 -フーラン村を事例として」『旅の文化研究所研究報告』No.11：111-124.
- 2003 「窯業村における運搬と行商の変遷」

バックニン省フーラン村を事例として」於立命館アジア太平洋大学口答発表。



窯数の変遷と1年間の生産概数

年	窯の数	1基の焼成陶器数	1年の窯業活動期間	1年間の製品数
1940-	14	1000 前後	6 ヶ月	84 万個
1941 -	12	1000 前後	6 ヶ月	72 万個
1947-	3	100 前後	?	?
1954-	12	1000 前後	6 ヶ月	72 万個
1959-	7	1000 前後	6 ヶ月	42 万個
1968-	5	1000 前後	12 ヶ月	60 万個
1983-	18	1700 前後	12 ヶ月	367 万 2 千個
1985-	21	1700 前後	12 ヶ月	428 万 4 千個
1990 前	29	1700 前後	12 ヶ月	591 万 6 千個半
2000 年	21	1700 前後	12 ヶ月	29 万 8800 個

(西野 2001 より)

### 生産周期の変遷

堤防外側居住期：6 ヶ月のみ

1-3 月窯業、4 月稲刈り、5-8 月洪水、9 月田植え、10-12 月窯業

残丘上居住期：一年中 移住

### 立地の変遷

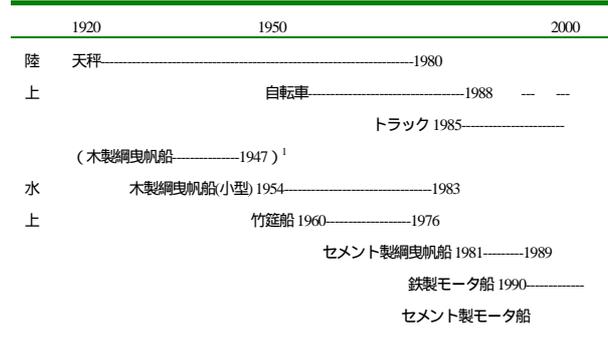
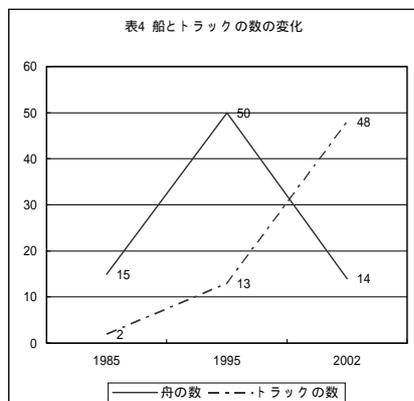
1968 年から残丘上に窯が気づかれ、洪水から年中免れるようになった。

窯の数 1947 戦争、1959-1983 合作社 1983 自由化

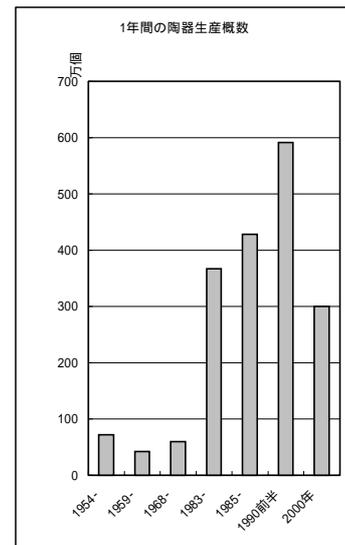
1990 年代前半 需要の増加 2000 年 供給過剰

### 運搬業の変遷

(西野 2003  
ベトナム研究会



於太平洋アジア大学レジユメより)



他の窯の廃業 Tho Ha (同じくカウ河沿い)

粗悪なものが売れる背景は

### フーラン村の食器

碗・皿もすべてフーラン村製。

フーラン村独特の陶磁器の使われ方

新製品? : 子供に貯金箱、犬の餌入れ

再利用 : 台所の煙突に2つ重ねた寸胴瓶を使用、棺桶を積んで壁、塀に。棺桶を家のコンクリートにはめ込んで、歯ブラシおきに。

### 社会の変遷

陶磁器に大きな影響を与えた出来事。

合作社時代という時代(点数制)

窯業システムの変化

家内制手工業から、大工場制へ

国家の方針によって、生産する製品も規制

自由化の後、また家内制手工業へ戻る。

以前の製品を作らなくなった。(時折自分の為に作ることもある。)

### 技術改良の為の人々の努力

チェコスロバキアに視察 1971/1972(6 ヶ月)

1. 釉のスプレーを持って帰ったが、当時は電気がな

かったし、また、フーラン村の釉では詰まって使用できなかった。

2. 型作りも試してみたが、フーランの土では合わないし、流し込みもしたが、フーランの土では乾かない。しめったまま。

抗米戦争で、木材があまり手に入らなかった。(一度に15 m<sup>3</sup>木材を使用する。)バッチャン、タインチ(ブルガリアが援助してガス窯がある)を Ba Thu が視察させて、フーラン村に取り入れようとした。(Ba Thu)バッチャンは Bao nung を使用している。フーランでも陶器の中に磁器をいれて焼成しようとしたが、村人はやらなかった。(十分整ってなかったのだろう)